

J-STAGE 編集基準

科学技術振興機構（JST）

知識基盤情報部

研究成果情報グループ

平成 20 年 5 月 30 日初版

平成 30 年 4 月 1 日改訂

目次

はじめに

1. 記事データの訂正・修正等についての編集基準
2. 記事のさまざまな版についての推奨基準
3. 雑誌の巻・号・ページ・発行年についての推奨基準
4. 和文誌・和英混載誌の誌名英文字表記についての推奨基準
5. 引用文献の書き方についての推奨基準

はじめに

電子ジャーナルが普及するにつれ、学術雑誌の編集方針や編集スタイルが外部から注目されるようになってきました。また、論文の捏造や剽窃が社会的問題となるにつれ、批判に耐えうる編集基準を持つことが重要となってきています。現在、学術雑誌編集に関する国際的基準としては、医学雑誌編集者国際委員会 (International Committee of Medical Journal Editors: ICMJE) の基準が、また編集倫理に関しては、出版倫理委員会 (Committee on Publication Ethics: COPE) および国際純粋・応用物理学連合 (International Union of Pure and Applied Physics: IUPAP) が作成した基準などがあります。

学術論文における訂正 (エラータ) や撤回などのデータベースにおける取扱については米国国立医学図書館 (National Library of Medicine: NLM) が示した基準があります。

日本学術会議においても平成18年に、すべての学術分野に共通する基本的な規範である声明「科学者の行動規範について」を公表し、その後、データのねつ造や論文盗用といった研究活動における不正行為の事実が発生したことや、東日本大震災を契機として科学者の責任の問題がクローズアップされたことから、平成25年に改訂版が出版されています。

また、学術情報の流通全般については、ISO の規格 (たとえば参照文献については ISO 690:1987 や電子文献の引用について定められた ISO 690-2、およびこれを翻訳した JIS X0807 等) もあります。わが国では科学技術情報流通基準 (Standards for Information of Science and Technology: SIST) がよく知られており、SIST 02 参照文献の書き方、SIST 05 雑誌名の表記、SIST 06 機関名の表記、SIST 07 学術雑誌の構成とその要素、SIST 08 学術論文の構成とその要素、などが学術雑誌編集に直接関係があります。(SIST事業は2011年度末に終了しましたが、事業の成果を活用していただくため公開は継続しています)

上記のように国際的なルールが形成されつつあることもあり、J-STAGE としても発行機関 (学協会等) に推奨できる編集基準を示すべきであるとの考えから、平成20年に J-STAGE が推奨する編集基準を作成し公表してきましたが、今般の社会情勢を踏まえ改訂を行うこととしました。

以下に概要とポイントを掲載します。
ここに示した推奨基準は次のとおりです。

- (1) 記事データの訂正・修正等について
- (2) 記事のさまざまな版について
- (3) 巻・号・ページ・発行年について
- (4) 和文誌・和英混載誌の誌名英文字表記について
- (5) 引用文献の書き方について

これらの推奨基準は、J-STAGE において電子ジャーナルを公開する上で守らなくてはならない規則や必須条件ではなく、J-STAGE として推奨する編集ルールです。発行機関が雑誌を出版する際に参考としていただき、国際的に通用する学術雑誌を編集していただくことを目的としています。

1. 記事データの訂正・修正等についての編集基準

学術雑誌の記事データの訂正・修正については、すでに国際的な慣行^{参考文献1-4)}が確立しています。国際的な電子ジャーナルサイトとしてこれらの慣行に準拠することを推奨します。

記事データの訂正・修正等には次の種類があります。

1. エラータ（記事訂正）
2. 記事撤回
3. 訂正再出版
4. エラータ、撤回、訂正再発行記事の記載方法
5. 軽微な修正
6. 補助資料（電子付録）の差替え
7. 著者原稿の訂正
8. 記事削除

1. エラータ（記事訂正）

学術雑誌の記事データの誤りについてはエラータ（Erratum, Corrigendum, Correction などと呼ばれる）記事を発行して訂正することが通常です。これには次の種類のものが考えられます。

- a. 標題、著者名等、書誌事項の訂正
- b. 本文中のテキストの訂正
- c. 本文中の図表、キャプションの訂正
- d. 引用文献の訂正

これらのどの場合もエラータの対象となります。著者が引き起こした誤りは、著者が署名した記事となります。雑誌の編集者が引き起こした誤りは、編集長（編集部）が署名した記事となります。学術雑誌のエラータは、後の号（同じ号の場合もある）のページ番号があるページに掲載され、訂正の内容が記載されます。このエラータは目次にも掲載され、元文献の完全な書誌事項が記載されている必要があります。

多くの電子ジャーナルではエラータ記事と元の記事は相互にリンクされます。J-STAGE でも同様に相互リンクをおこないます。主要なデータベース、たとえばMEDLINE (PubMed) はエラータ記事を独立して収録し、元の記事との相互リンクも提供しています。

冊子体の記事に訂正シールを貼ったり、正誤表をページの間にはさんだりしたものはエラータと認められません。またページ番号のないページ（奥付ページなど）に正誤表を記載したのもエラータと認められません。また J-STAGE では、エラータは冊子体に掲載されたものをそのまま掲載します。したがって冊子体にエラータが掲載されないのに、J-STAGE のみにエラータを掲載することはありません（オンラインのみのジャーナルは例外です）。

査読を受けない一般記事の誤りについては「正誤表」が後の号に掲載されることがありますが、これもエラータの一種ですので、ページ番号のあるページに掲載し、目次にも記載することをお勧めします。

2. 記事撤回

一旦発行された記事に重大な誤りが発見された場合や研究上・執筆上の不正行為があったような場合、その論文を撤回する事があります。研究上・執筆上の不正行為の疑いがある場合は、編集長は通常著者または著者の所属機関の長にその疑いを示し、回答を待ちます。撤回の同意が得られた場合は全共著者の署名による撤回要請という記事になります。全共著者の同意が得られない場合、あるいは撤回を拒否された場合などは、編集長の権限で撤回することも可能で、その場合は編集長が署名した撤回記事となります。

撤回記事は後の号（同じ号の場合もある）のページ番号があるページに掲載され、撤回の内容が記載されます。このエラータは目次にも掲載され、元文献の完全な書誌事項が記載されている必要があります。

電子ジャーナルにおいて、撤回記事は通常物理的に削除されることはありません。ただし、誤って撤回された記事が利用されることを防ぐため、何らかの形で、撤回された記事であることを明示します。J-STAGE では抄録表示ページに撤回されたことを明示するとともに、本文PDFの先頭ページに撤回理由に関する文言と「撤回」の透かし文字を入れたPDFを作成し表示してください。

多くの電子ジャーナルでは撤回記事と元の記事は相互にリンクされます。J-STAGE でも同様に相互リンクをおこないます。主要なデータベース、たとえば MEDLINE (PubMed) は撤回記事を独立して収録し、元の記事との相互リンクも提供しています。

3. 訂正再出版

エラータでは対応が困難な重大な誤りが発見された場合、記事を訂正して再出版する場合があります。これは主として雑誌出版者側の編集上のミスによるものです。たとえばカラー印刷されるべき図版を白黒印刷してしまった、図表の天地を逆にしてしまった、などがこれにあたります。記事の内容にかかわる重大な誤りはエラータで対応することが原則で、再出版はおこないません。

訂正再出版については出版社によって対応が様々ではありませんが、J-STAGE では、冊子体の後の号（同じ号の場合もある）に新しいページを付与して掲載された再出版記事のみを、再出版記事として掲載します。この場合、元の記事と再出版記事の間は相互にリンクされます。

冊子体で再出版されないのに、オンラインだけ訂正再出版することはありません。別刷りの形で後の号に挿入するなどの再出版は、J-STAGE では再出版とみなしません。再出版記事は元の記事とページ数が違ってくる可能性があるため、元の記事と同じ書誌で再掲載すると、ページ数の重複など問題が生じるからです。

4. エラータ、撤回、訂正再発行記事の記載方法

エラータ記事、撤回記事、訂正再発行記事については元の記事標題の先頭または末尾に「エラータ (Erratum to:)」、「撤回 (Retraction of:)」、「訂正再発行 (Correction and Republication of:)」などの文言を付記するようにしてください。これらを専用の記事セクション（エラータ、など）に置いた場合も同様です。

また、記事の内容は訂正内容、撤回の理由、訂正再発行の理由などが、明確にわかるように記載してください。訂正再発行記事においては、訂正再発行の告知と再発行記事を分けて掲載することによって、再発行の理由を記載することができます。

エラータ、撤回、訂正再発行がおこなわれた際、元の記事の PDF の先頭に各告知記事のページを挿入すると、読者の誤用を避けることができます。ただし、元の記事を訂正された記事に差替えることは決して行わないでください。

5. 軽微な修正

書誌事項や本文における軽微な誤りについて、J-STAGE で訂正することを希望される場合があります。軽微な誤りとは、自明で読者が容易に判定でき、誤解の恐れのない誤りで、たとえば所属機関名の綴りの誤り (University が Univrsity になっているなど)、文法上のちょっとした誤り (was が were になっているなど)、句読点の誤りなどがこれにあたります。著者名の誤り、電子メールアドレスの誤りなどは自明ではありませんので、軽微な誤りではありません。また記事タイトルの（句読点以外の）誤りは通常軽微な誤りではありません。

学術雑誌では、一旦発行された記事の軽微な誤りは修正しないことが慣例です。J-STAGE でも PDF や HTML 本文において軽微な誤りの修正・訂正はおこないません。著者名の誤りなど自明でない誤りは軽微ではないので、エラータで訂正します。

J-STAGE の抄録表示ページ、目次ページにおいては書誌事項（著者名、機関名など）の軽微な誤りを訂正することは可能です。その場合は、訂正がおこなわれていな

い冊子体との整合のため、誤りのデータも削除せず、訂正後のデータと両方を記載します。記事の標題、抄録については軽微な誤りの訂正は行わないので、訂正を必要とする場合はエラータ記事を発行してください。

6. 補助資料（電子付録）の差替え

査読済みの論文の補助資料は、査読の目を通っていると考えられますので、原則として差替えることはありません。データの誤りなどが発見された場合も、差替えることはありません。またオンラインのみで提供されること、本文ではないことから、エラータも発行しません。重大な誤りがあってどうしても差替えが必要となる場合は、その補助資料ファイルの先頭に編集委員長名で差替えを許可した理由と修正された箇所を明示します。ただし新しいデータの追加や、古いデータの更新を理由として差替えることはできません。アプリケーションのバージョンアップでファイルが読めなくなるなどの場合は、その範囲での更新を認めます。元のファイルも古いバージョンとしてそのまま残されます。

査読されない記事の補助資料についても査読済み論文に準じます。

7. 著者原稿の訂正

著者が自分のサーバ、機関リポジトリなどに自著原稿を登載する場合があります。著者がその原稿を訂正されても雑誌の側では対応できません。雑誌に掲載された記事が正本であることを著者に理解していただき、J-STAGE 記事へのリンクを明記するよう依頼し、また重要な訂正についてはエラータ記事を発行するよう依頼してください。

8. 記事削除

日本学術会議が提言している、科学者個人及び科学者コミュニティーに対する「科学者の行動規範」においては、科学者及び科学者コミュニティーに社会から信頼と尊敬を得るために不可欠なものとして、科学者の責務、公正な研究、社会の中の科学、法令の遵守についての行動規範を求めています。

研究成果の公開に対しては、研究の実施と成果の公表にあたって社会に許容される適切な手段と方法を選択することが示され、研究成果の公表（論文の公開）に対しても倫理上の責務と責任は科学者（著者）及び科学者コミュニティー（学協会等）に委ねられているとしています。

一方、J-STAGE は研究成果である論文情報の発信・流通のためのインフラの提供を担うものであり、この観点から論文（記事）の公開、削除については基本的に著者及び学協会等に委ねることが望ましいと考えます。

以上から J-STAGE における公開データの物理的削除については基本的に下記の場合において対応を行います。

○ 裁判所の命令による場合

他人の著作権の侵害や公序良俗を害する場合など、その他法律上の理由で撤回された記事について裁判所から削除命令がなされた場合。

○ 学協会等発行機関の出版倫理に基づく場合

学協会等の発行機関が、研究成果の公表が深刻な健康上のリスクに繋がる危険や破壊的行為に悪用される危険があると認識されるなど、科学者の行動規範に基づき出版倫理上の観点から削除すべきと判断した場合など。

上記の場合、メタデータ（タイトルと著者名）は維持されますが、本文(PDF 及び HTML、電子付録)の J-STAGE 上からの削除がおこなわれます。なお、論文が法的あるいは倫理的理由により削除されたことを示す画面が表示されます。

ただし、裁判所の命令あるいは発行機関の特別な判断によりメタデータを含めて全てを削除すべきとした場合は、この限りではありません。なお、この場合でもリンク切れを防止する観点から、DOI 等により参照された際には該当の論文が削除されたこ

とを示す画面が表示されます。

[参考文献]

- 1) Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals
(International Committee of Medical Journal Editors)
<http://www.toukokuitei.net/i4aURMud.html>.
- 2) Errata, Retraction, Duplicate Publication, Comment, Update and Patient
Summary Policy for MEDLINE.
<http://www.nlm.nih.gov/pubs/factsheets/errata.html>.
- 3) Elsevier Policy on Article Withdrawal.
<https://www.elsevier.com/about/our-business/policies/article-withdrawal>.
- 4) Nature. Correction and retraction policy.
http://www.nature.com/authors/editorial_policies/corrections.html

2. 記事のさまざまな版についての推奨基準

1. 記事の版について

書籍は版・刷を重ね、その間に修正や加筆がされるのが普通ですが、雑誌記事は一回限りの発行で、版という考え方はありませんでした。しかし電子ジャーナルにおいては、書籍とは異なりますが次のようなさまざまな版が存在します。

発行メディア	冊子体、オンライン（電子ジャーナル）、CD-ROM
電子版の形式	PDF, HTML, TeX, PostScript
発行の順序	査読済み最終原稿、早期公開記事、通常公開記事、累積版

2. 正本の考え方

雑誌を発行する場合、冊子体と電子版のどちらを正本とみなすか、考えを整理する必要があります。

- (1) 冊子体が発行されていて、これを電子ジャーナルとしても発行する場合
冊子体が正本と考えられますので、電子ジャーナルのPDFは冊子体と完全に同一でなくてはなりません。書誌事項も同一である必要があります。

冊子体に印刷されていて、電子ジャーナルに含まれない記事がある場合は、その旨電子ジャーナルのトップページや目次などで説明する必要があります。

- (2) 電子ジャーナルを正本として冊子体も当面発行するか、累積版を発行する場合
電子ジャーナルが正本ですので、冊子体の記事は電子ジャーナルと完全に同一でなくてはなりません。書誌事項も同一である必要があります。

電子ジャーナルとしては発行されているが、冊子体に含まれない記事がある場合は冊子体目次にその旨明記する必要があります。冊子体とのページ付けの不整合を避けるため、電子ジャーナルのみの記事のページ付けは別なもの(E25 など)にしてください。

- (3) どちらともいえない場合
冊子体においても電子ジャーナルに含まれない記事があり、電子ジャーナルにおいても冊子体に含まれない記事があるような発行形態は好ましくありません。やむを得ずこのような事態になる場合は、ジャーナル・トップページおよび冊子体目次で明記してください。
- (4) 電子ジャーナルのみの場合

電子ジャーナルが正本となります。

正本が先に発行されるとは限りません。冊子体が正本であるのに電子版が先に発行される場合は、PDF および冊子体の記事のトップページの脚注などにオンライン公開日を明記してください。

電子ジャーナルで発行した論文を別の誌名で冊子体や CD-ROM で発行すること、またその逆も行わないでください。記事の正本が明らかでなくなり、引用する場合にも混乱がおきます。どうしても再掲載が必要な場合は、転載記事（6 項参照）として扱ってください。

冊子体には記事の一部のみを印刷し、電子版では完全な記事を公開するような場合は、冊子体の目次および該当ページに抄録、抜粋、部分などであることを明記してください。特にこのような場合は冊子体と電子版でページ付けの不整合を避けるため、電子版では特別のページ（E25 など）を使用してください。

3. プレプリント、早期公開、最終原稿

一般に雑誌の出版社によって正式に公開されたものが正本となります。したがって通常プレプリント・サーバに搭載されたプレプリント、早期公開記事(※)、リポジトリに搭載された最終原稿は、その公開後に校正や修正がおこなわれる可能性があるため正本ではありません。引用する場合は正本を引用するよう推奨してください。ただし、DOI で引用する場合は、原則として正本にリンクされますので、これらの版の違いは問題なくなります。

(※ J-STAGE では、採択後の記事の掲載号が公開される前に J-STAGE に掲載された記事を指す)

4. PDF と HTML

冊子体と電子版の両方で記事を掲載する場合、電子版の PDF は冊子体の記事と完全に同一である必要があります。誤植や訂正がある場合はエラータ（記事訂正）などで対応してください。

電子版で記事を HTML 公開する場合、その HTML は冊子体の記事および PDF とテキストや図表に関して完全に同一である必要があります。HTML の性格上、レイアウト、表示可能な文字やリンクなど見かけが異なります。また HTML には冊子体がない付加価値が付与されることがあります。

5. DOI について

DOI はその記事が最初に電子公開されたときの発行者によって付与されます。一旦付与されると、その雑誌の掲載サイトが変更されても、雑誌の所有者が変更されても DOI は変更されません。また、ある雑誌が複数のサイトに掲載されても同一の DOI が使用されます。このようなサイトには大学などの機関リポジトリも含まれます。DOI は PDF, HTML, 冊子体, CD-ROM などのメディアや形式を区別しませんが、リンク先として使用する場合は、DOI 登録機関（JaLC, Crossref など）に登録されているアドレスにリンクされます。DOI は電子版が発行される際に付与されますが、付与された DOI は冊子体にも記載するようにしてください。

DOI はある記事が最初に電子的に発行されたときに付与するべきです。したがって、早期公開がおこなわれる場合は、その時点で DOI を付与します。

6. 記事の転載・翻訳について

自誌または他誌に掲載された記事の転載・翻訳をする場合の注意点については、「生医学雑誌への投稿のための統一規定：生医学論文の執筆と編集」（翻訳版）の

「III. D. 3. 受理可能な二次掲載」を参考にしてください。特に次の点に注意してください。

- (1) 転載記事のトップページの柱には、転載記事そのものの柱に加えて、元の記事の書誌事項を

Reprinted from Br. Med. J. 1954: 1451-5

のように記載するか、元の記事の柱をそのまま残してください。

- (2) 可能なら記事のタイトル中に同様の記載をしてください。
- (3) 翻訳記事の場合は、記事のタイトル中に元の記事の書誌事項を記載してください。転載記事はデータベースによっては（MEDLINE など）収録しないことがあるのでご注意ください。

7. リポジトリ

大学などでリポジトリを開設し、そこに雑誌論文の登載の許可を求められる場合があります。登載を許可する場合は正本に対応する電子版の所在地（J-STAGE など）のDOIを記載して正本へのリンクが正しくできるように要求してください。リポジトリへの登載許可に関しては、投稿規程などに明記することをお勧めします。

3. 雑誌の巻・号・ページ・発行年についての推奨基準

1. 発行日・発行年

発行日・発行年はその論文の先取権(priority)を示すだけでなく、特許などの係争の際に重要な証拠となります。発行年の不整合は雑誌の信頼性を著しく損なうこととなります。特に電子ジャーナルにおいては、記事ひとつひとつがばらばらに流通するので、発行日・発行年の記載には冊子体と異なる厳密さが要求されます。

記事の柱、雑誌の表紙・奥付などには発行日・発行年はその号が実際に発行された日・年を記載してください。発行予定の日・年は使用しないでください。

例: ある巻の1号が2017年6月発行で2号は12月発行の予定であったが、実際は2018年1月発行になった場合は、2号の発行年は2017年でなく2018年になります。

次のような場合は論文の脚注などに実際の発行日を記載してください(冊子体、PDFとも)。

- オンラインのみで発行される場合
- 通常公開の前に早期公開される場合
- 電子ジャーナルが冊子体より先に公開される場合

例 a. オンラインのみの論文 Published online on Oct 28, 2005.

例 b. 早期公開の場合 Published online in advance on Oct 28, 2005.

例 c. 電子ジャーナルが先行公開の場合 Published online on Oct 28, 2005.

のような脚注を冊子体、PDFとも記載します。

2. 巻

西暦年の1-12月に発行される記事をまとめて1巻とすることを推奨します。また、数字のみを使用してください。

3. 号

号には数字を使用してください。ただし特集号の場合は文字を使用してもかまいません。

4. ページ

ページは巻ごとの通しページとしてください。号単位のページを使用すると、J-STAGEにおけるリンクがうまく生成できなくなり、また引用索引の際に誤りが生じます。

特集号などのページは通しページにできない場合があります。その場合はS25など、特集号とわかるページを付けてください。ある巻で特集号が複数発行される場合はSA25, SB25のようにページが重複しないような工夫をしてください。ハイフンなど特殊文字は使用しないで下さい。

冊子体には掲載されない(または抄録のみが掲載される)が、電子ジャーナルには掲載される記事がある場合は、それとわかるページ(E25など)をつけてください。冊子体の目次にはそのような記事があることを明記してください。

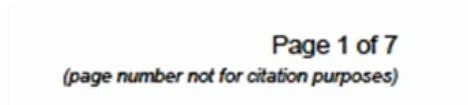
5. 論文番号

電子のみの雑誌の場合はページに代えて論文番号を使用することもできます。

例: Phys. Rev. Lett. 2004, (5) 050401.

論文番号を使用する場合は、論文中のページを論文番号（書誌）と明瞭に区別して記述してください。これは引用する際の混乱を避けるためです。論文番号と論文中のページをハイフンで結合することが一部の学会誌でおこなわれていましたが、J-STAGE では推奨しません。

例 1: ページ番号が各記事の中での通し番号であることがわかるような表示となっている。また誤用をさけるような注記がなされている。



例 2: 柱に書誌事項をまとめて表示しており、ページ番号を離して表示することで、引用する書誌に含められないよう工夫している。



好ましくない例: 記事番号に各記事のページ数を結合した表示になっている（このまま引用されると、記事番号なのか、ページの範囲を示すものなのかわかりにくくなってしまふ）。

e2734-1, e2734-2, …

6. 雑誌に大会予稿集、講演要旨集、大会論文集を収録する場合

雑誌の一部または特定の号または特別号に、学術大会の予稿集、講演要旨集、大会論文集を収録する場合はしばしば見受けられます。予稿、講演要旨は J-STAGE では「ジャーナル」としては登載されず、「予稿集・要旨集」として登載されます。ただし、大会発表を通常の論文として掲載する場合は「ジャーナル」として登載されます。

(参考資料 3-1)

科学技術情報流通技術基準

「学術雑誌の構成とその要素」(SIST 07) (抜粋)

4. 記載要領

4. 2 巻号数

- (1) 巻号数は、巻号だての場合には第1巻第1号から、号だての場合には第1号から、以下順をおって一連のアラビア数字により表示する。
- (2) 巻号だての場合には、それ以外の通し号数は付けない。
- (3) 一つの巻が継続する期間は、暦年月の区切りと一致させ、毎巻一定していることが望ましい。
- (4) 別冊、臨時増刊、付録などを発行する場合には、当該誌名及び巻号との関連を明らかにする。必要な場合には、その号が単独で扱えるようにすることが望ましい。

4. 3 ページ

- (1) 巻号だての場合には、一つの巻の第1号本文の第1ページから始まり、その巻の最終号本文の最終ページで終る一連の数字を付与する。
- (2) 巻号だての場合には、各号の第1ページから始まるページ付けを併記してはならない。
- (3) 号だての場合には、一つの号の本文の第1ページから始まり、その号の本文の最終ページで終る一連の数字を付与する。
- (4) 本文と関連のある写真、図表等が本文から独立して別ページに印刷されている場合には、それらに対しても配列の順序に従ってページを付与する。
- (5) 表紙、目次、標題紙、広告等は本文ページには含めない。ただし、本文が記載されているページの裏側は、広告又は白紙等であっても、本文ページに含めたページを付与する。
- (6) ページ付けに用いる数字は、アラビア数字とし、原則として、すべてのページに記載する。
- (7) 別冊、臨時増刊、付録等のページ付けは、それぞれの号で1から始まる別だてのものとする。
- (8) 別刷等の際には、発行時のページ付けを変更してはならない。

4. 4 発行年

- (1) 発行年又は発行の年及び月若しくは月日（以下これを“発行年”と呼ぶ）は、その号が実際に発行された年月日とし、西暦をアラビア数字で表記する。
- (2) 発行年は、巻又は号数の記載がある箇所に併記する。

4. 和文誌・和英混載誌の誌名英文字表記についての推奨基準

日本の学術研究を広く海外に流通させたいと考えたとき、学協会等発行機関の発行する雑誌が英文誌ではなく和英混載誌や和文誌の場合には、誌名の扱いが原因で不当に低い評価しか得られていないことがあります。このような場合、下記の通り誌名の扱いについて配慮することで、その知名度と評価の向上の一助とさせることができます。(以下、誌名が日本語の雑誌で、英語の誌名も併記している場合を例に挙げます。このように正規の誌名に併記している誌名を並列タイトルと呼びます。)

雑誌の知名度と評価を高めるには、海外の主要なデータベースへ収録されることと引用が増加することが重要な要素になります(参考資料 4-1)。

海外の主要なデータベースにおいては、本タイトルの日本語誌名をローマ字化したものを誌名として採用するケースが多く見られます。ISSN の本タイトルもローマ字表記が原則です(参考資料 4-2)。データベースに収録されている誌名の利用を推奨することで、より引用文献が見つけやすくなり、知名度向上につながります。J-STAGE でも英語画面で表示する誌名は原則としてローマ字表記となりますが、理解を助けるため英語誌名の併記もおこなっています。

引用については、引用される誌名の表記にばらつき(引用の分散)が見られることがあり、本来の実績よりも低く評価される原因となっています(参考資料 4-3)。引用がローマ字と英語の両方でおこなわれるのは、並列タイトルに英語を用いていることがひとつの原因です。

和文誌・和英混載誌において引用を一本化するためには、次のオプションが考えられます。

- a. 引用に用いる誌名にローマ字を使うよう推奨する
 - a1. 並列タイトルは変えないが引用にローマ字を推奨する(論文の柱や J-STAGE の英文目次、英文書誌、To cite this article をローマ字誌名とする、投稿規程にそのように記載するなど)
 - a2. 並列タイトルをローマ字として、英語が使われないようにする
- b. 引用にもちいる誌名に英語を使うよう推奨する
その雑誌がすでに英語で多く引用されている場合はその方法も考えられます。
- c. 誌名を英語に変更する(例: 科学技術情報学会誌 → Japanese Journal of S&T Info)
この場合は ISSN を変更することになりますが、ISSN センターはあまり推奨しておらず、J-STAGE としても慎重な立場です。

[各オプションの比較]

	本 タイトル	並列 タイトル	引用誌名の推奨		海外に も分か りやす い誌名	引用の 分散し にくさ	懸念事項
			英文 論文	和文 論文			
a1	日本語	英語 (愛称とし て残す)	ローマ字	日本語	△	△	英語誌名で引用される場合が出てくるので、引用の分散の可能性はある。
a2	日本語	ローマ字	ローマ字	日本語	△	○	
b	日本語	英語	英語	日本語	△	△	MEDLINE はローマ字で収録するので、引用が分散する可能性はある
c	英語	なし (日本語誌 名を廃止)	英語	英語	○	○	誌名を変更すると Impact Factor の計算はやり直しとなる。 タイトルが英語の場合、読者は英文の内容を期待するため、少なくとも英文抄録の掲載が望ましい。

注: 本タイトル 表紙に大きく書かれた誌名 (J-STAGE ではバナーのタイトル)

並列タイトル 表紙に書かれた副次的な誌名
(ここで並列タイトルを変更することは、必ずしも ISSN の情報を変更することを意味しません)

(参考資料 4-1) データベースへの収録と引用について

1. データベースに収録されることがなぜ重要か

MEDLINE (PubMed※1、STN、ProQuest、Dialogなどで提供) や Web of Science※2、Scopus※3 などの海外の主要なデータベースに収録されると以下の点で有利になります。

- (1) データベースの検索結果からのリンクにより雑誌へのアクセスが増える
ほとんどのデータベース検索サービスは全文リンクを充実させています (PubMed の LinkOut や STN/SciFinder の ChemPort など)。
- (2) データベースの英文抄録を読んだ際の引用が増える
主要なデータベースは世界中の多くの研究者から利用されています。
- (3) データベースに収録されることにより雑誌の評価が高まる
主要なデータベースの収録雑誌は、それぞれ一定の基準を満たして収録されているため、定評があります。
- (4) 他のデータベースへの収録に有利になる
例えば MEDLINE で収録の可否を判断する際に他のデータベースへの収録実績が参考にされます。

※1 PubMed は米国国立医学図書館による MEDLINE の無料公開版。世界中の生医学研究者から広く利用されている。

※2 Clarivate Analytics (旧 Thomson Scientific) による Impact Factor の元となる引用文献データベース。Impact Factor には賛否がありますが、雑誌を定量的に評価する指数として広く参考にされています。

※3 Elsevier 社が提供する抄録・引用文献データベース。Scopus では、引用回数をもとにしたジャーナル指標としての CiteScore を提供しています。

2. 引用が増加することがなぜ重要か

- (1) 引用文献リンクにより雑誌へのアクセスが増える
Crossref に参加している雑誌、または、Web of Science、CPlus、Scopus などの引用文献を索引しているデータベースに収録されている雑誌の論文において引用された場合、引用文献の記述からリンクが張られます。
- (2) Impact Factor の上昇により雑誌の評価が高まる
Web of Science に収録されている雑誌には、掲載記事数に対する被引用の実績から算出された Impact Factor が付与されます。
- (3) 著者の業績評価が高まるため、優れた論文の投稿の増加につながる
- (4) データベース収録に有利になる
例えば、Web of Science への収録には引用が多いことがひとつの条件となっています。

和英混載誌や和文誌であっても、高い評価を得ている雑誌は海外の主要なデータベースに収録されています。データベースに収録されることにより引用が増加し、引用

が増加することにより、より多くのデータベースへの収録も可能になります。

(参考資料 4-2) データベースにおける和文誌の誌名

1. MEDLINE における誌名の基準

MEDLINE では「英米目録規則」による本タイトルを誌名として採用しています。これは「タイトルが 2 カ国語以上で記載されている場合は、その書誌資料の主要言語で書かれているタイトルを正式タイトルとする。もし主要言語が 2 つ以上あるときは、最初に記載されているタイトルを使用する。」というものです。非英米語タイトルについては翻字(ローマ字化)がおこなわれます。

2. データベースに収録されている和文誌または和英混載誌の誌名

各データベースに収録されている和文誌または和英混載誌(和文論文を含む雑誌)の誌名は次のようになっています(Scopus 以外は 2003-2004 年の数字)。

データベース (分野)	収録誌数	ローマ字誌名	英語誌名	ローマ字 誌名割合
MEDLINE (医学)	65	58	7	89.2
Science Citation Index (SCI) (全分野)	30	12	18	40.0
CA ** (化学)	265	228	37	86.0
Compendex (工学)	35	27	8	77.1
EMBASE (医学)	88	6	82	6.8
Scopus * (全分野)	79	55	24	69.6

* 現在収録が中止されているものも含めて全雑誌

** 2003-2004 に 50 件以上の記事が収録された雑誌

このように MEDLINE, CA, Compendex では和文名称がある場合ほとんどローマ字誌名を採用しています。Scopus もローマ字誌名の方が多くなっています。EMBASE だけは主として英語誌名を採用しています。なお Scopus では、抄録レコード中でローマ字誌名に対して英語誌名も付記する割合が増えていきます。

(参考資料 4-3) 引用される誌名の表記のバラつきについて

日本語の誌名を持つ和英混載誌や和文誌では、誌名の音訳であるローマ字誌名のほかに翻訳した英語表記の誌名を並列して持っていることがあるため、データベースに収録される書誌の誌名と引用文献の誌名が一致していなかったり、また引用文献の誌名が和英に分かれていたりする（引用が分散している）場合が見られます（下表はローマ字誌名と英語誌名のバラつきの例）。

引用が分散すると、異表記の引用が見落とされることで正しく集計できず、Impact Factor も少なく計算されるなど、雑誌にとって不利であるとともに、著者にとっても業績が過少に評価されることとなります。

	記事収録数						引用文献数			
	SciSearch		CAplus		Medline		SciSearch		CAplus	
	ローマ字	英語	ローマ字	英語	ローマ字	英語	ローマ字	英語	ローマ字	英語
雑誌 A	0	0	0	0	560	0	2	230	2	77
雑誌 B	0	0	3101	0	0	0	309	621	265	458
雑誌 C	0	1279	341	0	0	0	2	2294	6	251
雑誌 D	250	0	646	111	0	0	382	19	161	4

データベースによって収録誌名が異なる例

誌名変更の前後で数値が割れてしまう例

引用された誌名(英語)で検索しても出てこない例

引用が分散しているため部分的にしか実力が評価されない例

◎引用が分散する原因

- a. 雑誌名の異同 引用誌名がローマ字と英語に分散してしまう。
- b. 語形の異同 引用異名に Japanese, Japan, Jpn; Geolog, Geol など異なった語形（省略形）がもちいられる。英語誌名で引用されるときに起こりやすいが、Science Citation Index ではこれらの省略形はある程度名寄せして集計していると思われる。
- c. 綴りの誤り Gijutsu が Gijutu, Gijyutsu などになる。
- d. その他 年、巻、ページの記載の混乱など（雑誌単位の評価には影響ありません）

c. ～d. は防げませんが、a. は下記のように引用する誌名の推奨の仕方が鍵になります。

◎引用の誌名はどこから採用されるか

- a. 論文（PDF 含む）の柱から → 学会が推奨する誌名が使用される
- b. 電子ジャーナルの書誌情報から → 学会が推奨する誌名が使用される
- c. データベースの抄録等から → データベース採用の誌名が使用される
- d. 他の引用のコピー
- e. 日本の著者による書誌の翻訳

→データベースに収録されている誌名と引用に推奨する誌名を一致させることが重要です

5. 引用文献の書き方についての推奨基準

投稿規程や執筆基準で引用文献の書き方を説明する場合、科学技術情報流通技術基準「参照文献の書き方」(SIST02)を参照するとともに、特に次の点にご留意ください。

1. 和文論文の引用文献における日本語誌名の完全表記

一部の学会誌では日本語誌名の略記を推奨しています。従来主として会員しか読まなかった冊子体と異なり、電子ジャーナルには非常に広汎な研究者がアクセスします。特定の分野でしか通用しない略記された雑誌名では情報が伝わりません。SIST02では日本語誌名については完全名の記述を推奨しています。

例：奥羽大歯誌 → 奥羽大学歯学誌

2. 英文論文の引用文献における日本語誌名のローマ字表記

PubMed, Cplus, SciSearch などの国際データベースでは和文誌の日本語誌名がローマ字で表記されます。これらの記載と一致させることにより、引用文献が正しく集計されます。SIST02でも和文誌の日本語誌名を英文論文中で引用する場合は英語化した誌名でなく、ローマ字誌名を使うことを推奨しています。

例：J. Soc. Mater. Sci., Jpn. → Zairyo